

国語科における言語活動の充実

2013. 12. 12

思考力、判断力、表現力等の育成に向けて、言語活動の充実を意識した授業実践が各教科で行われています。

はじめに、なぜ授業改善が必要なのでしょう。 (毎日の授業から・・・)

国語科の授業の問題点を振り返る

学校訪問の際、次のような悩み、心の声が聞こえてきます。



教師の悩み

教材研究をしっかりと行い授業に臨んだのに、子どもの反応が鈍かったな。ねらいと活動の区別も途中でつかなくなるし・・・国語の指導は、難しいな。



児童・生徒の声

今日の国語の勉強は、いったい何が大切だったのかな？
まとめもなかったし・・・
国語って何を勉強しているのかよく分からないな。

単元を通して繰り返し指導し、文学教材の主題をしっかりと教えることができた。でも、一部の生徒しか発表せず、活気がなかったな。何が問題だったのかな？

定期テストでの点数も、予想より悪かったな・・・



教師の声

私は、この作品について違った考えを持っていて、発表したかったのに先生が一方的にまとめて、授業が終わってしまった。国語の勉強って、なんだかつまらないな。



児童・生徒の悩み

新しい学習指導要領に完全移行

→ 小学校で3年目、中学校で2年目を迎えます。

学校訪問では、言語活動の充実を意識した授業により、児童・生徒が生き生きと学習に取り組む、すばらしい授業が見られた一方、学習指導要領の指導事項の理解や言語活動の充実の視点が不十分な授業もありました。



国語科における言語活動の充実 — 4つのポイント

単元で付けたい力を見極める。

最適の単元を貫く言語活動を選定する。

言語活動を単元を貫いて位置づける。

「大好き!」「知りたい!」「伝えたい!」を重視する。



この**4つのポイント**をどのように考え、授業の実践につなげていけばよいのでしょうか。何回かに分けて、できるだけ分かりやすく、教科の部屋で紹介していきたいと思います。

まず、**4つのポイント**から、授業改善に努めていきましょう!